



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 經濟論叢 1941, 52(6): 770-772

ISSUE DATE:

1941-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/131540>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五十二卷 第六號

昭和十六年六月

哀辭 故山本博士遺影及署名

論叢

支那の農家と田賦附加税……………經濟學博士 八木芳之助

佛印幣制論……………經濟學博士 松岡孝兒

企業者勞働費論……………經濟學士 大塚一朗

貨幣流通期間と平均生産期間……………經濟學士 青山秀夫

時論

重慶政府の戰時物價政策……………十龜盛次

記事

山本博士逝く

追憶文

神戸 正雄 末廣 重雄 牧野 虎次 中瀬古六郎 本庄榮治郎

谷口 吉彦 松岡 孝兒 大塚 一朗 堀江 保藏 穂積 文雄

高木 眞助 蟠川 虎三 石川 興二 金持 一郎 岡本 清造

附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第五十二卷總目錄

彙報

經濟學部

○本學名譽教授山本美越乃氏は昭和十六年五月十三日薨去せらる。

○大學院入學許可(經濟學部所屬)

金融の理論的並に實證的研究

東亞金融論

東亞資源論

滿洲國に於ける資源の研究

金融論

黎學湖

酒井一夫

金子永徹

連紘

劉榮第

經濟學會

○三月例会 三月十五日(土)午後一時より、樂友會館に於て開催され次の報告があつた。

日清戰爭における清朝の財政政策 柏井象雄氏

東亞經濟論叢第一卷第二號登載論文參照。

獨逸に於ける廣域經濟論

松井講師

この報告の課題は近頃流行の廣域經濟論を一應その發生の地獨逸に求め、獨逸の國際經濟思想史の一環としてそれが持つ意義を明らかにするにあつた。一九三〇年の世界恐慌は、第一次世界大戰の敗者獨逸に最も深刻な打撃を與へたのであるが、廣

域經濟論はかゝる獨逸に生れた危機の理論である。從來の自由主義的な世界經濟の機構が世界恐慌を契機としてその機能の大半を停止したとき、それに代る新たな秩序を創出するために生れて來た實踐の理論なのである。そのやうな意味に於て廣域經濟論は極めて主觀的な性格をもつのであるが、その本來の使命を果すためには經濟の基礎構造に關する客觀的な認識を伴ふことが絶對的に要請されるものと考へられる。本報告に於て主張したいのはそのことを中心としてゐると述べられた。

當日の出席者―汐見、谷口、八木、大塚、堀江、中谷、白杉、青山、松井、田杉、堀江(英)の諸先生。青盛、上杉、岡部、大橋、柏井、河野、澤崎、辻、中西、三谷、尤の諸氏。

○四月例会 四月二十二日(火)午後六時三十分より樂友會館に於いて新任助手並びに本年度大學院新入學生歡迎會を兼ね經濟學會例会を開催。八木部長の歡迎の辭につき、新任助手並びに新入學生の謝辭及び自己紹介あり、それにて一應歡迎會を終へ、七時十五分より例会に入つた。

「國家購買力と國民購買力」と題されて谷口教授の報告が行はれた。(内容は、本誌五月號所載論文參照)

報告後質問に入り、九時四十分盛會裡に終了した。

當日の出席者―汐見、谷口、八木、柴田、中川、大塚、堀江(保)、中谷、穗積、徳永、靜田、青山、松井、田杉、堀江(英)、鈴木の諸先生。青盛、有井、有田、井上(悠)、岡部、尾上、河野、齋藤、澤崎、澤村、辻、松木、三谷、山崎、尤、黎、連の諸氏。